

震度と揺れによる周囲の状況

4



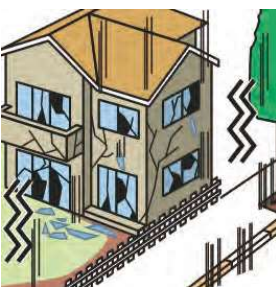
かなりの恐怖感があり、一部の人は、身の安全を図ろうとする。眠っている人もほとんど目が覚めます。座りの悪い置物が倒れることがある。電線が大きく揺れ、歩いている人も揺れを感じる。

5弱



多くの人が、身の安全を図ろうとする。棚に入った食器や本などが落ちることがある。家具が動くことがある。耐震性の低い木造住宅では、壁や柱が破損するものがある。

5強



多くの人が行動に支障を感じる。タンスなどの家具が倒れることがある。変形でドアが開かなくなったり、戸が外れることがある。耐震性の低い木造住宅では、壁や柱がかなり破損したり、傾くものがある。

6弱



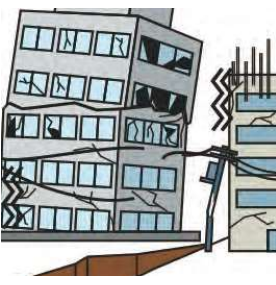
立っていることが困難になる。重い家具の多くが移動したり倒れたりする。家屋の変形でドアが開かなくなることが多い。耐震性の低い木造住宅では、傾くものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。

6強



立っていることができず、はわないと動くことができない。固定していない家具のほとんどが移動・転倒する。耐震性の低い木造住宅では、倒壊するものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱がかなり破損するものがある。

7



揺れにほんろうされ、自分の意思で行動できない。ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。耐震性の高い住宅でも、傾いたり大きく破損するものがある。

地震発生時の心構え・行動のポイント

まず自分の身の安全を確保

地震発生



- まず、身を守る
机の下などへ。慌てて外へ飛び出さない。寝ている場合は、布団で頭をカバー。
- すばやく火を消す
危険が伴うので無理はしない。
- 脱出口を確保する
ドア、窓を開ける。

揺れが収まったらまず火の始末

発生1〜2分



- 火元を確認する
火が出たら落ちていて初期消火。
- 家族の安全を確保する
倒れた家具の下敷きなどでケガをしていないか。
- 靴をはく
室内に散乱したガラスの破片などから足を守る。
※がけ崩れのおそれがある地域ではすぐ避難

隣近所の安全確認 火災の発生を防ぐ

発生3分



- 隣近所に声をかける
ケガ人・行方不明者の確認、救出・救護。
- 近所に火が出ていたら初期消火
大声で知らせる。
消火器を使う。バケツリレーをする（風呂の水をためおきしておく）。
- 余震に注意

ラジオなどで正しい情報入手

発生5分



- 正しい情報をつかむ
ラジオや町役場、自主防災組織の情報を聞く。
- 電話はなるべく使わない
緊急連絡電話が優先。安否確認は「災害用伝言ダイヤル171」で。
- 家屋倒壊などの危険があれば避難
避難をするときはガス栓をしめ、ブレーカーを落とす。

協力して消火 救出・救護活動

発生10分
発生数時間
発生3日



- 助け合いの心が大切
力を合わせて消火活動、救出・救護活動。
- 水・食料は蓄えているものでしのぐ
飲料水と食料を備蓄しておく(3日分)。
- 壊れた家には入らない
無理をして、二次災害を起こしてはいけない。
- 災害情報・被害情報の収集
引き続き余震に注意。